

# タグラグビー

中遠地区 花村 資子



皆さんはタグラグビーを知っていますか？

平成二十年改定された文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」で例示され、小学校四年生から授業に取り込まれました。現在は全国各地で小学生タグラグビー選手権大会が開かれています。

今年一月、私の住んでいる学区でも大会が開催されました。塾生も大会前一ヶ月間、遅くまで練習に励んでいました。

では具体的にタグラグビーはどんなスポーツなのでしょうか？

ラグビーの体当たりのタックルを除

いた安全なスポーツです。そして、タックルの代わりになるのが「タグ」と呼ばれるものです。

「タグ」とは、飾りヒモのことで、プレーヤーの腰に「タグベルト」を巻き、そこに左右二本のタグがマジックテープで付けられています。このタグが相手プレーヤーが取る事で、タックルの代わりにするそうです。

このタグが四回取られた場合、そのチームから攻撃権が相手チームに移動します。但し、防御側が取ったタグは捨てたりせず、すぐに相手に返します。一チーム五人のプレーヤーで試合を行います。

試合開始再開は「フリーパス」によって行われます。プレーヤーはボールを両手で持ち、レフエリーの「プレー」の合図でボールをチームメイトにパスします。試合開始はハーフウェイラインの中央から、反則等からの再開時は、それが起こった地点から行われ、ボールを持たない側は5m下がって構え

ます。

得点は「トライ(一点)」。相手ゴールラインにボール保持者がボールを持ち込み、下方向に圧力をかけてグラウンドに付ける事で成立します。得点後は、得点された側のフリーパス(ハーフウェイライン中央から)で試合を再開します。

フリーパスを受けるプレーヤーはパスを行う者の真横または後方2m以内に立ち、パスを受けてから、プレーヤーは、前後左右どの方向にも自由に動くことができます。パスはいつしてもかまいませんがボールは真横か後方へしか投げられません。前へ投げてしまった場合は「スローフォワード」の反則となり、その場所から相手チームのフリーパスでゲームを再開します。前へとは、相手ゴールラインの方向です。パスをとりそこねてボールを前へ落とすことは、スローフォワードと同じくボールを手で前へ進めたことになるので「ノックオン」という反則となります。

守る側は、タグをとったら頭上に掲げ、皆に聞こえるように大きな声で「タグ！」とコールします。タグをとられたプレーヤーは、すぐに走るのをやめて止まり、できるだけ早くボールをパスします。全速で走っていたとしても、タグをとられたらただちに止まる事が求められ、めやすは三步以内ですが、これはタグをとられてから三步は動いてもよいことを意味するものではありません。バスケットのトラベリングのようなものでみんな芝生で滑ったり転ん

だり走りすぎたり大変そうです。

タグをとったプレーヤーはそのタグを手渡しで返すまで、タグをとられたプレーヤーはとられたタグを返してもらって再び腰につけるまで、ゲームに参加することはできないのです。

守る側のプレーヤーが故意にボールより前(オフサイドラインより前)の位置に立って攻める側のタグ後のパスを邪魔したり横取りしたり、パスを受けるプレーヤーの近くまであらかじめ先回りしてタグをとろうとするなどのプレーは「オフサイド」の反則となるそうです。バスケをしていた方はきっと手を広げて前にたつてしまっそうですね。タグが起こったら、守る側のプレーヤーはボールより自分たち側のサイドに戻るようになります。

時間は大会によって異なるようです。

これまでがプレー説明です。文章だけでは伝わるかどうか自信がありませんが、皆さんの学区でも十二月・一月の寒い季節になったら、子供達はきっと授業で体験しているはずですよ。その頃に子供達に話しかけてみてあげてください。子供達は目を輝かせて答えてくれると思います。

\*前回発行の「そろばん静岡第三六〇号」におきまして、6頁に記載の昇段者氏名の「五段 好田 竣哉」さんの名字が「吉田」になっていましたが「好田」の誤りです。お詫びして、訂正いたします。